

1. 13時05分～13時35分(30分)

「隠れたる未踏峰の宝庫」－2011年 インドヒマラヤ・ザンスカール南部の探検－

AACK 伊藤 寿男

インドの北西部にあるザンスカールの南部には、これまで登山家や探検家が足を踏み入れたことのない未知の谷が幾つか残っており、知られざる 6000m 前後の未踏峰が未だに沢山眠っている。2009 年のレルー谷に続く 2011 年の探査で、レナック谷とギアブル谷の未踏峰探検を行ったので、その概要を紹介する。

2. 13時35分～14時15分(40分)

「ヒマラヤの自然信仰と祭り」－ブータンとインド北東部(アルナーチャル・プラデーシュ州)から－

写真家、AACK 小林 尚礼

ブータン東部のメラック・サクテン地方とインド北東部のアルナーチャル・プラデーシュ州の山岳地帯には、遊牧民ブクパや農耕民モンパといった同じ民族が国境を隔てて暮らしています。彼らは 500 年ほど前に、女神アマ・ジョモに導かれて、寒冷なチベットから緑豊かなヒマラヤ南麓にやって来たという伝説を共有しています。山や湖、そして何気ない木や石にも女神にちなんだ言い伝えがあり、それらに祈る祭りがあります。彼らの聖地と祭りについて紹介します。

3. 14時25分～15時05分(40分)

「水の神：龍・ナーガに捧げる競漕祭と稲作文化」－アジアにおける拡がりとはオスの現状－

早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 橋本 彩^{さやか}

競漕祭は東アジアから東南アジア、南アジアに至るまで広く行われている年中行事である。中国の影響が強い場所においては、舟の舳先に龍を飾り、インドの影響が強い場所においては舳先にナーガ^{かたどる}を象る風習がある。いずれも水を司る神とされているため、祭りの目的は稲作に関連した雨乞いや豊穰祈願であることが多い。本発表ではオスの競漕祭にみられる儀礼の象徴性および近年の変化について報告する。

4. 15時15分～16時05分(50分)

「焼畑再考」－ラオス山地民の森林利用から学ぶもの－

名古屋大学大学院環境学研究科准教授 横山 智^{さとし}

ラオスが経験している森と人間との関係性の変化に、途上国の環境問題の縮図を見ることができる。何世紀もの間、人びとは森とうまく付き合いながら生活してきた。しかし、急速に進んだグローバル化と社会主義国の経済改革の波、さらに世界的な環境保護の気運の高まりによって、人と自然の関わり方が大きく変化した。本発表では、ラオスの人々の焼畑と森林利用を通して、森と人との関わり方をどのように捉えるべきか考えていきたい。

5. 16時10分～17時10分(60分)

「お茶」－起源、歴史など、あれこれ話－

京都大学名誉教授(微生物生化学)、AACK 左右田健次

茶は加工した茶葉あるいはこれを原料とする飲料です。英語の Tea, ドイツ語の Tee, 日本語のチャ、ロシア語の Chai など、その呼び名は中国の南部や北部の言葉に由来し、原産地は中国雲南、四川地方です。茶はカテキン、テアニン、各種のビタミン、ミネラルを含みます。製茶において発酵過程を含む紅茶、黒茶と含まない緑茶に分類されます。茶は伝説では BC28 世紀、歴史的には BC59 年頃、四川を起源とし、製法、形態、飲み方は時代、土地により変化しました。茶の文化史についても触れます。